



個と組織を生かす

# 2019年度青森プロボノチャレンジ アンケート・インタビュー調査でみる 軌跡

2020年1月31日（金）

(株)リクルートマネジメントソリューションズ

組織行動研究所 藤澤理恵

# アンケート、インタビュー調査の趣旨と概要

## ■青森プロボノチャレンジプログラムへの参加者を対象に、 社会貢献プログラムへの参加経験について調査

- 参加のきっかけ・期待したこと
- どのような経験だったか
- 仕事における行動や考え

## ■アンケート

- 参加前：オリエンテーション後～活動開始前まで
- 参加後：報告会終了1ヵ月後

## ■インタビュー

- 参加後：報告会終了1ヵ月後

# 調査結果のまとめ

## ■参加のきっかけ・期待したこと

- 気軽な気持ち、興味・関心から
- 多様な人、異業種の人と一緒に活動することへの期待

## ■どのような経験だったか

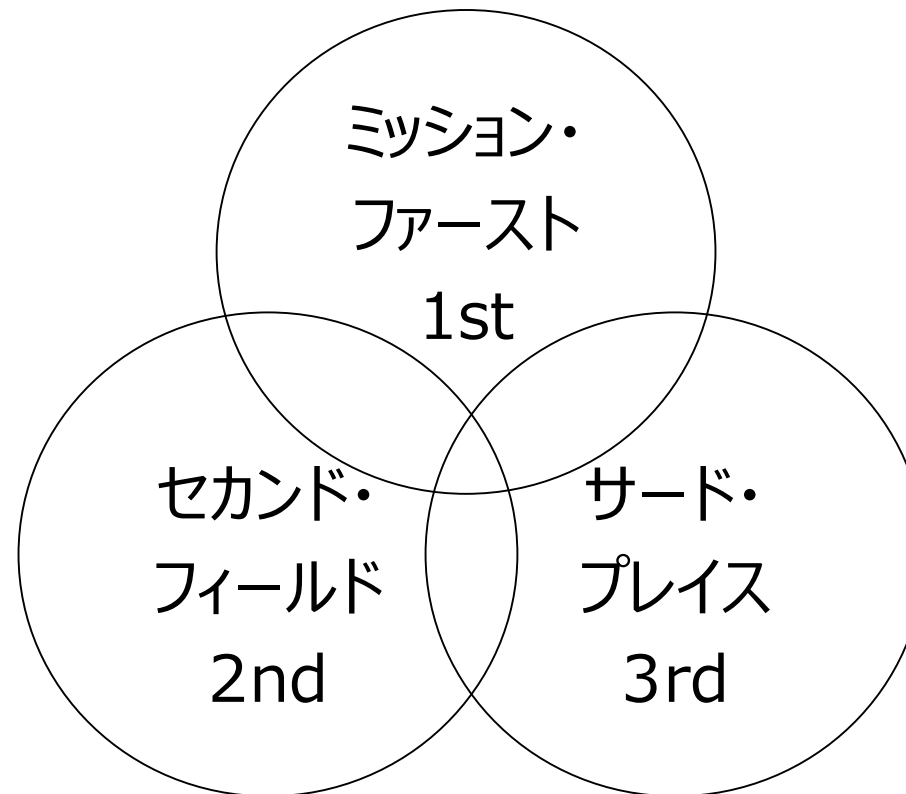
- 仕事では得にくい経験
  - 社会にある、多様な生き方や、志ある活動を知る機会
  - スキルや能力を違う場面で生かし、感謝される機会
  - 楽しさや貢献の気持ちに導かれて、手探りで学び考える機会
- 私生活や仕事生活を豊かにする学び
  - 自分の強みや関心を知ったり再確認する機会
  - 他者との関わり方の「引き出し」が増える機会
  - 生き方や働き方に関する考え方が柔軟になる機会

# 参加のきっかけ・期待したこと

# 参加のきっかけや期待

## ■参加動機はさまざま

- ① 社会活動を知りたい、貢献したい（ミッション・ファースト：1st）
- ② 仕事やキャリアに役立てたい（セカンド・フィールド：2nd）
- ③ 家庭や職場とは別の居場所や縁を育てたい（サード・プレイス：3rd）

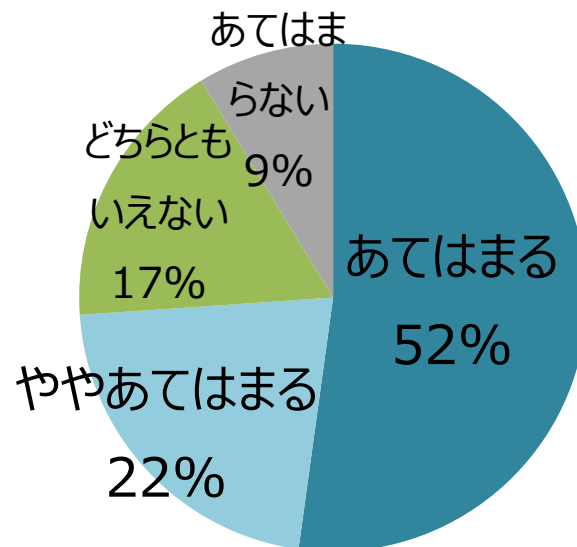


# 動機① 社会活動を知りたい、貢献したい

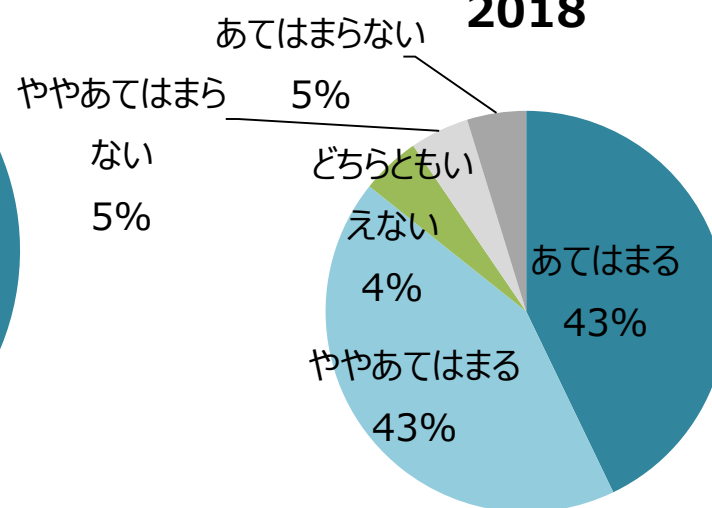
「趣旨に共感する社会貢献活動や団体のために、何かできることをしたいと思った」

**74%**

2019



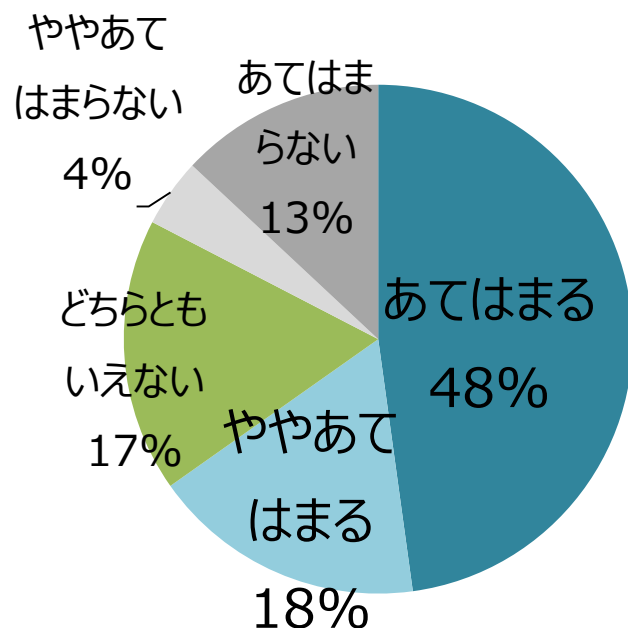
2018



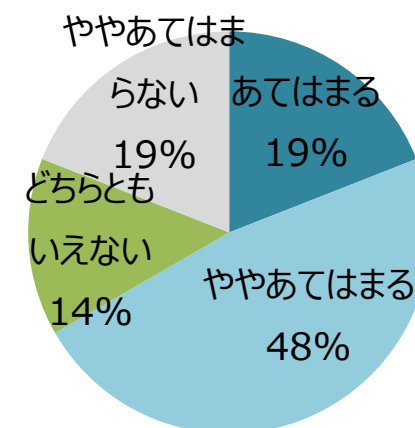
「非営利組織の仕組みや活動を知らなりたいと思った」

**66%**

2019



2018



# 動機① 社会活動を知りたい、貢献したい

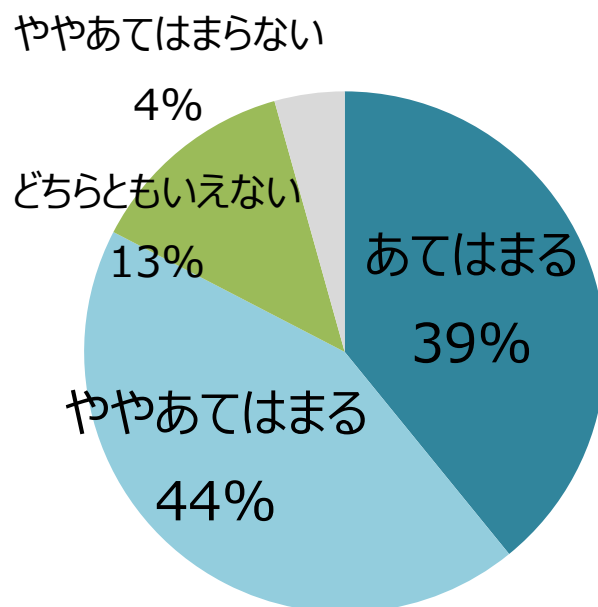
- 「プロボノってという言葉も聞きなれなかったので、まずなんなんだろうみたいなのがあって、NPO法人とか、こういうところの支援っていうところだったので、NPOとはっていうことも、仕組みっていうか、その辺も分かんないので、そういうところもちょっと聞いてみたいなと思って。」(男性,45～49歳)

# 動機② 仕事やキャリアに役立てたい

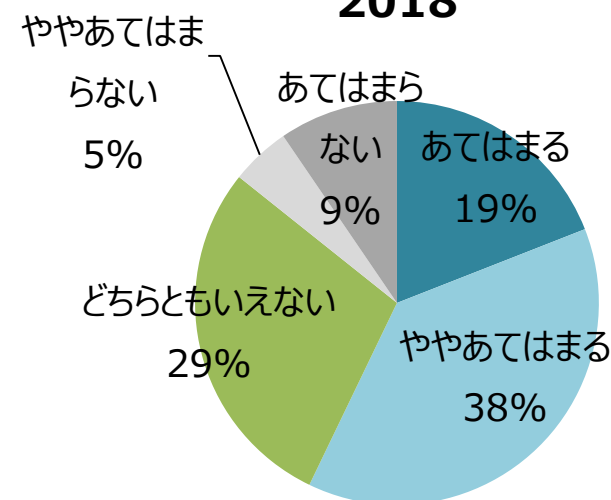
「本業とは異なるスキルや能力を活用したり伸ばす機会になるのではないかと期待した」

**83%**

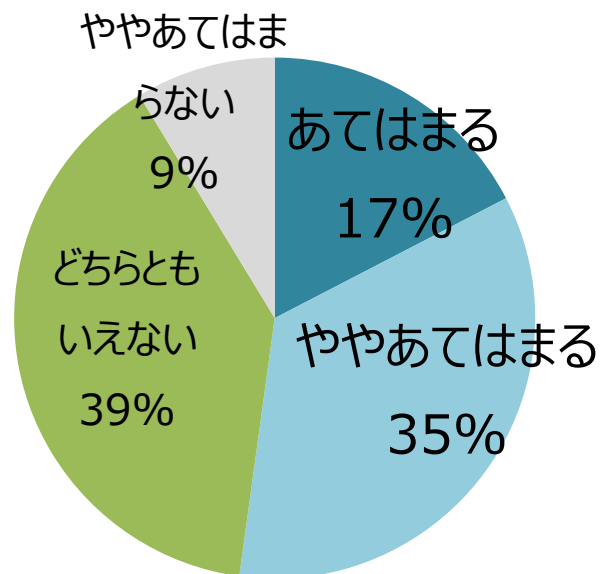
2019



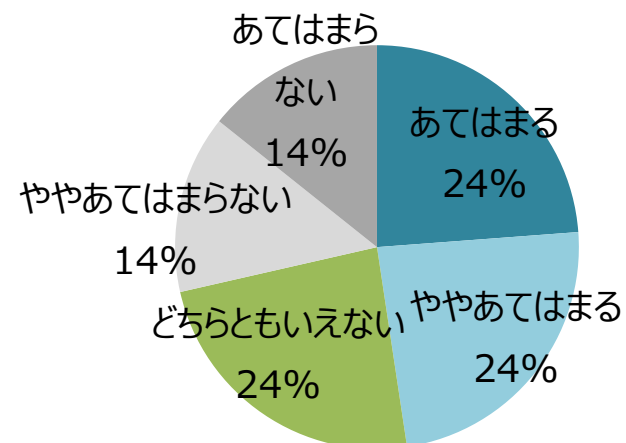
2018



2019



2018



「本業に役立つスキルを身につけたいと思った」

**52%**

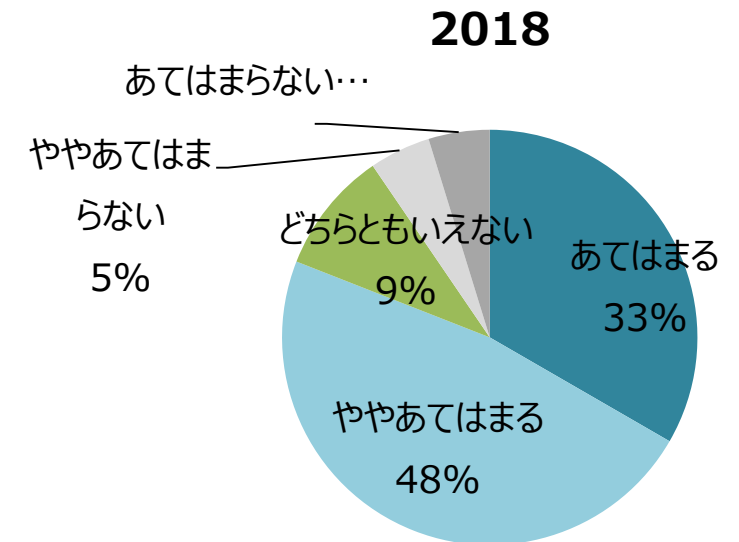
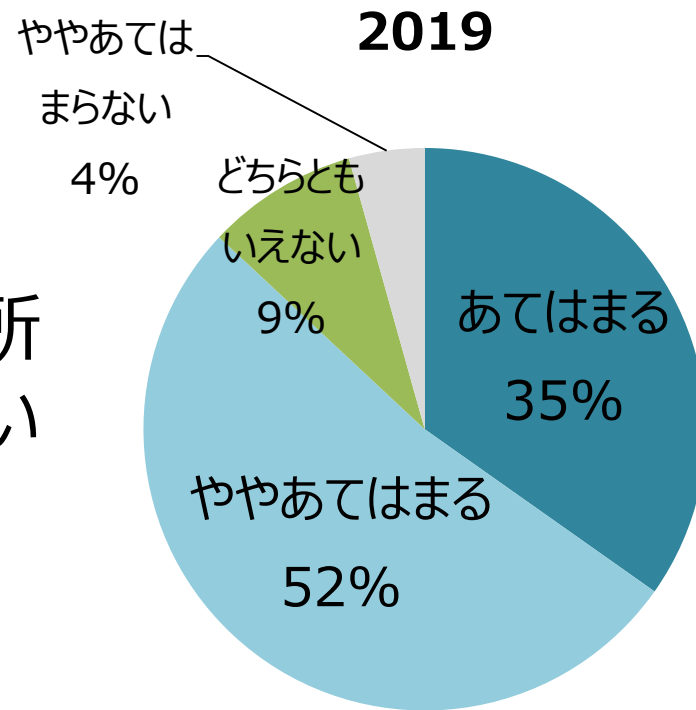


## 動機② 仕事やキャリアに役立てたい

- 「最後までやりきれるかとか…外部の人と一緒にいるんなことが出来るんだなというのも、たぶんわかってくるのかなと。それが自分の仕事とかにも生かされる、多分にあるかなと思いますし」(男性,45～49歳)

# 動機③ 家庭や職場とは別の居場所や縁を育てたい

「新しい仲間や居場所  
が得られるのではない  
かと期待した」  
**87%**



## 動機③ 家庭や職場とは別の居場所や縁を育てたい

■「これはちょっとターニングポイントになるかもしれないなっ  
ていう気持ちがあって参加させていただきました。なんか新  
しい自分をちょっと見てみたいなっという思いがあったかも  
しれませんね。

…自分自身もやはり居場所ってすごい重要だなって思うとき  
も。それこそ第三の居場所といいますか、家庭と仕事以外の  
居場所ってすごい重要かなっというのも思っていて」

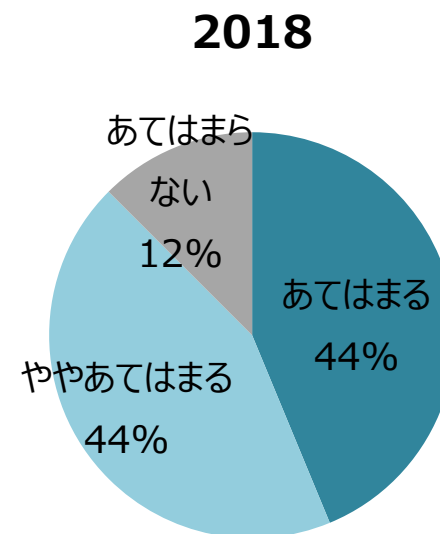
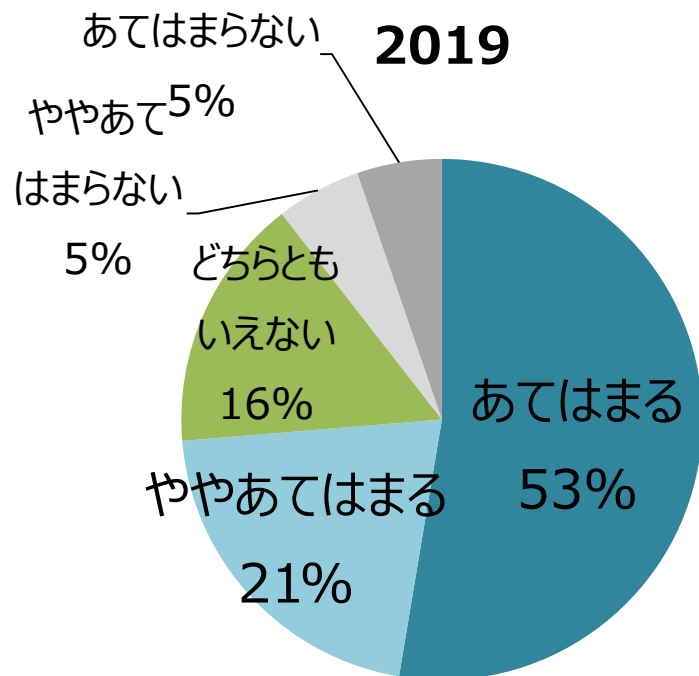
(女性,45～49歳)

# プロボノ活動における 経験の特徴

# プロボノ活動の特徴① 仕事との異質さ

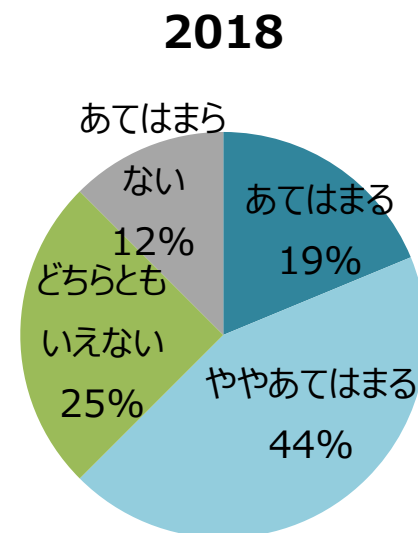
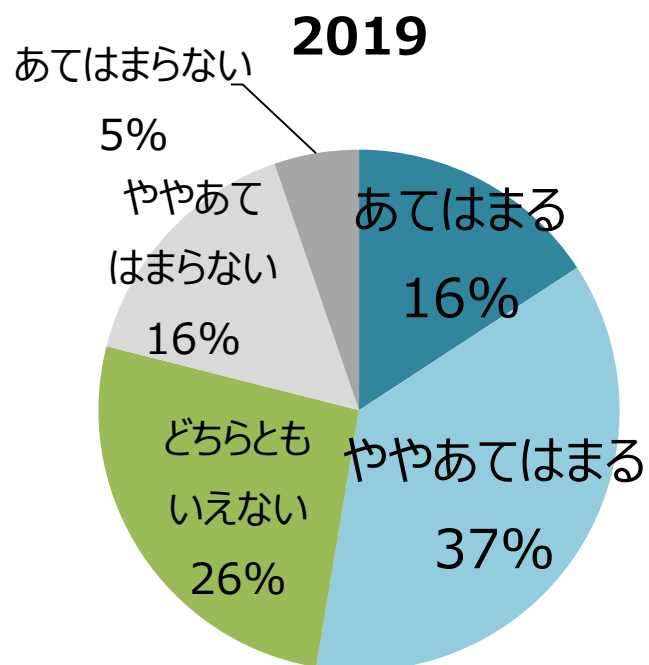
「会社内や業界にはあまりいないタイプの人と協働した」

**74%**



「本業とは異なるスキルや能力を活用したり伸ばす機会になった」

**53%**



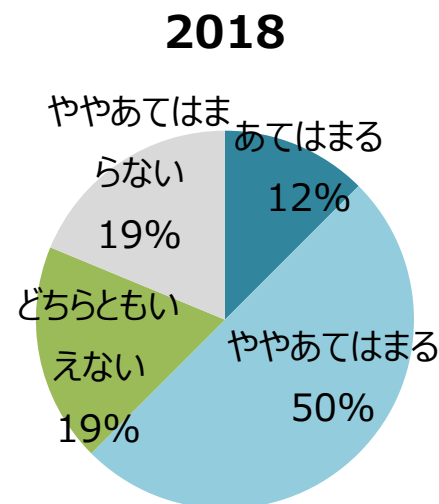
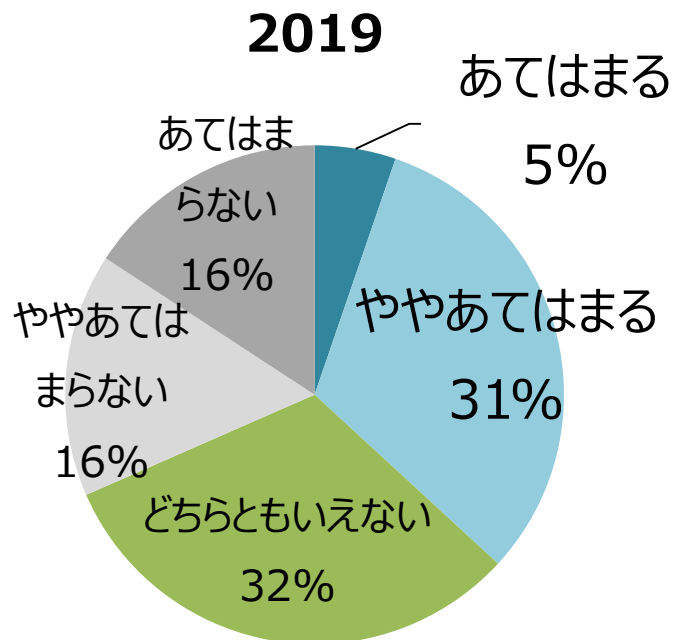
# プロボノ活動の特徴① 仕事との異質さ

- 普段関わらない方々と交流出来て良かった(女性,30～34歳)
- 普段関わることのない人たちと一緒に作業することができ、知らなかった世界を見ることができました。仕事とは全く違うことを考えることで、気分転換にもなりました。視野が広がって、自分の人生の偏りみたいなものが、少し修正された気がします。(男性,45～49歳)
- 新しい人脈が増えたことが一番の収穫に感じています。また自分のやりたい事のビジョンがはっきりしたように感じました。(男性,35～39歳)

# プロボノ活動の特徴② 自主・自律

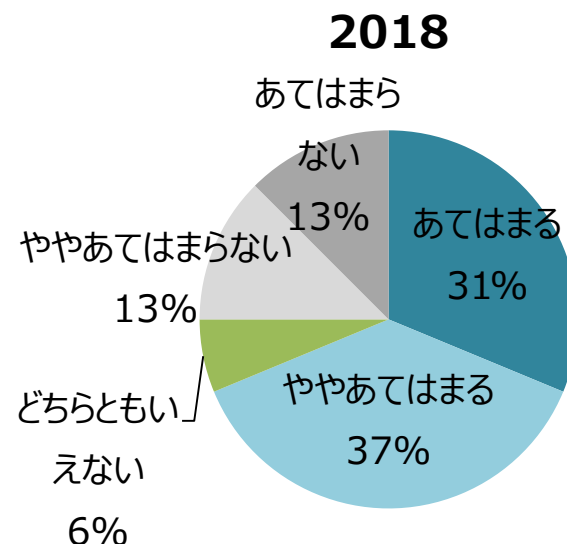
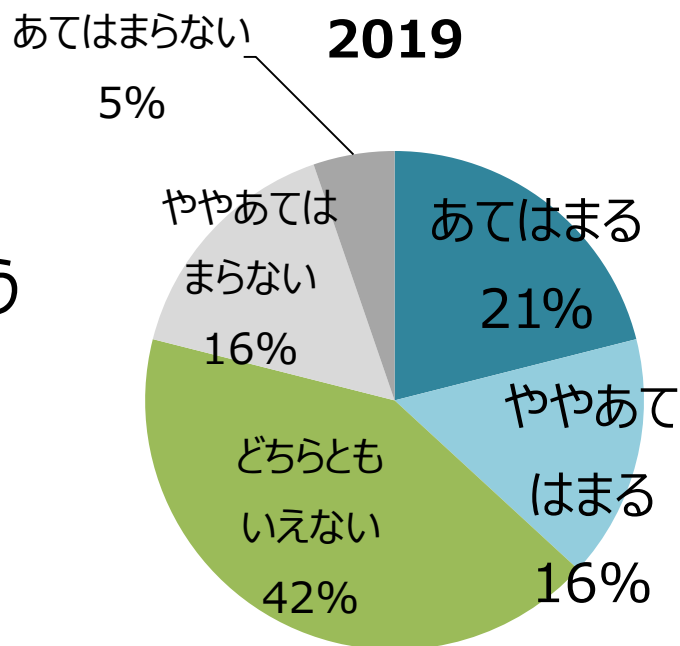
「役割の内容や成果の基準を、自分で定義した」

**34%**



「何をいつどのように行うか、自分で判断した」

**37%**



## プロボノ活動の特徴② 自主・自律

- 目標達成感の感動(男性,45～49歳)
- 新たなことにチャレンジする力を自分の中に再確認できた。  
(女性,45～49歳)
- 「仕事は対価を得てやらなきゃいけないという義務があってやるものですけど、そうじゃないので、自由度が高いがために、やっぱり皆さんそれぞれがどこまでやるとかというものも明確に、集まった段階で見えないものなので、リーダーも決まってる世界だし、上下があるわけでもないし。かといって同世代かというとそういうわけでもなかったり、もちろん異性もいてという、もう本当に多様な方々の中で一つのことを同じ目的を持ってやるということは、まあないですよ、仕事の中では。絶対にないことだと思う」(男性,45～49歳)



## プロボノ活動の特徴② 自主・自律

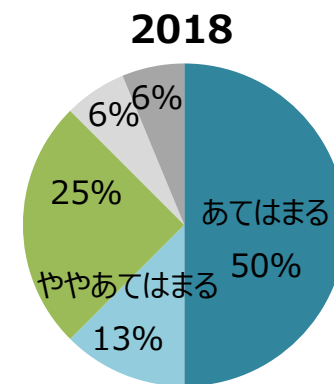
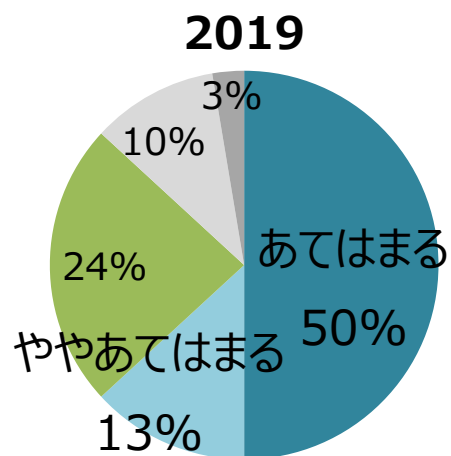
- 「クライアントとの距離感というんですか、要望をどこまで入れなきゃいけないのか。これが、なんだろう、プロボノじゃなくて本当にビジネスとしての依頼でやっているのであれば、また違ったコンタクトの取り方もあるだろうし、提案の仕方もあるだろうしというのはあるんだけど、プロボノならではの距離感…正直言うと、クライアントさんの希望どおり出すんだったら別にわたしら要らないよね、最初からねって思うような部分も…でもそれさえもやっぱり例えばリーダーがね、きちんとそのところを、われわれはこういう立場でクライアントに向き合うんだというところにちゃんと落とし込めたので、それはやっぱり彼のすごいところだよね」(男性,55歳以上)

# プロボノ活動で起こる 内省

# 社会と、仕事について考える機会に

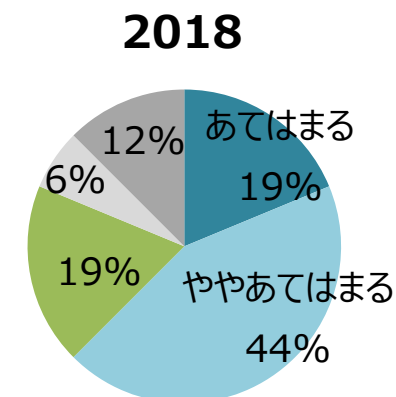
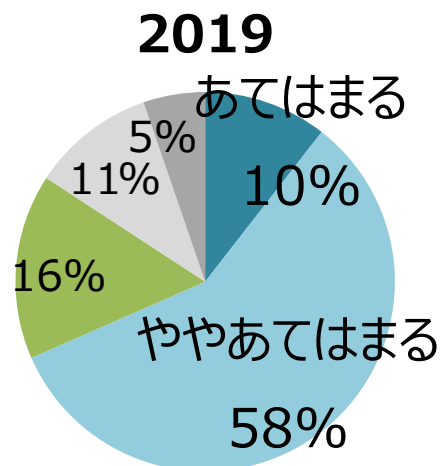
「よりよい世の中のあり方について考えるようになった」

63%



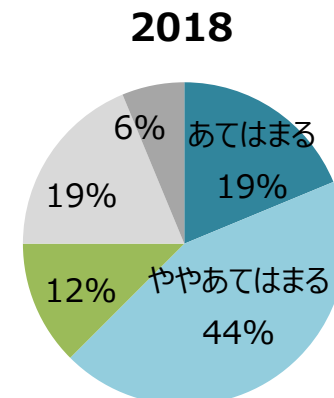
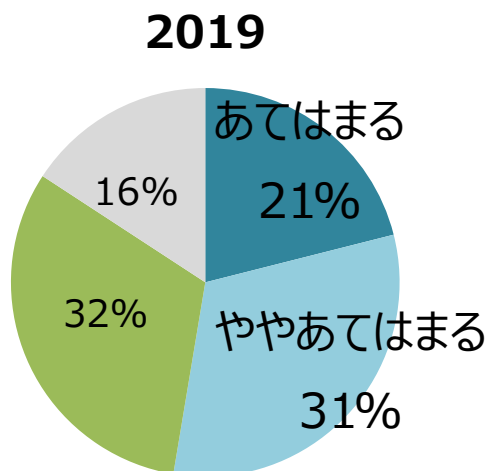
「自分の仕事上の強み・弱みや、成果を出せる働き方が具体的に確認できた」

68%



「所属している組織や業界が、社会に提供する価値を具体的に認識した」

52%



# 内省① よりよい世の中について考える

■「やっぱり、大人の社会科見学っていう、そこが一番、今回のプロボノっていうのに関して言えば、近いのかなという感じでした、結果的には。…今回はパンフレットを作る…これを作るのが目的だったんですけども、そうじゃなくて、これも目的だったんですけども、フリースクールとか、不登校っていうものを改めて知れたっていうんですか。知ることができたっていうイメージのほうが強いという、分かったんだという感じだったんです。知らなかったなっていう感じだったんですよ。」(男性,45～49歳)

■地域で活動している団体が抱えている問題が、自分の支援した団体以外でも把握できたことで、ぼんやりとだが、狭義の地域に対する課題や自分がやりたい・やらなければならない事などをより意識できるようになった。(男性,40～44歳)

## 内省② 自分の強み・弱み、成果の出し方

- 「(自分の強みって) 話をすること、聞きだすことだなってちょっと思いましたね…どんどん次につなげる会話ができるかなって、なんてちょっと思いました。」(女性,45～49歳)
- 「自分の今まで積み上げてきたキャリアって無駄じゃないなって思えたし、ようやく子育てしながら楽しいっていうふう  
に、最初大変だっと思ってしか思えなかったんですよ…子ども連れながらも活動することもできるんだって…いい出会いがあるんだってという出会いも感じました。」(女性,35～39歳)

## 内省② 自分の強み・弱み、成果の出し方

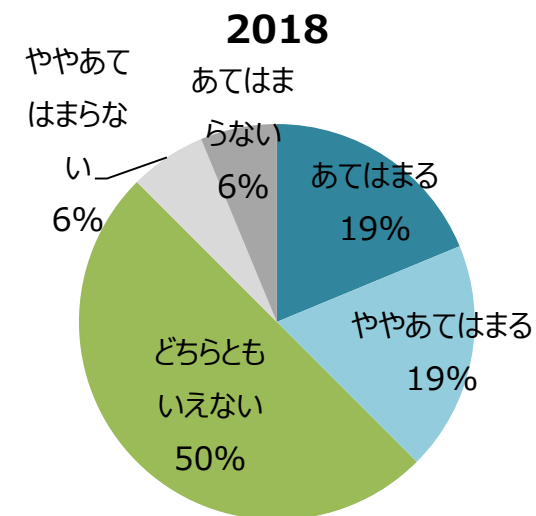
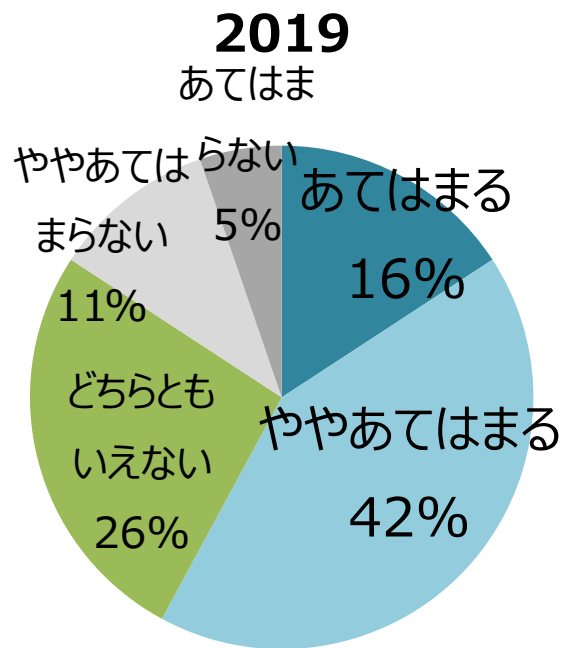
- 「みんなの力でっていう、それを意識したのがすごく発見だったかもしれないです、気づきというか。(今までは)自分がやらなきゃ誰がやるのっていうのも結構強かったんで…  
(自分が)いなくても回るように常にしてなきゃ駄目なんだな  
という確信に近い気づきかもしれないです、今回を通して」  
(男性,35～39歳)
- 「自分ができないところを無理してやるんじゃないでなくて、きちんと人の力を借りてやっ**ていけばいいんだね**っていうふうに**気付かされた**っていうのがありますね…自分、そこには気付けなかったなっていうところに、(チームから)気づきがぽんぽん出てくるじゃないですか。そうなんだっていう、(自分ができないこともあるということを)やっぱり納得できるから。」  
(男性,55歳以上)

# プロボノ経験を通じた 学び・変化

# 仕事における変化① 仕事の意味のとらえ直し

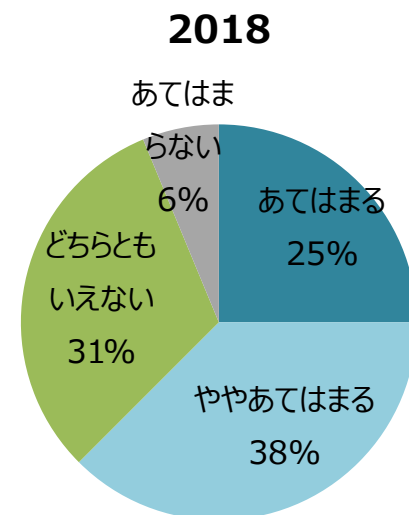
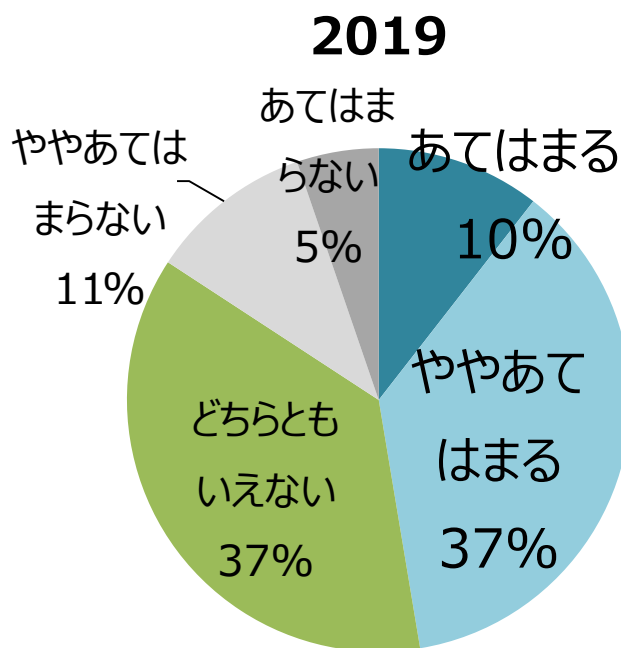
「担当する仕事の目的が  
**より社会的に意義のある**  
ものであるととらえなおすよ  
うになった」

**58%**



「仕事上のタスクや役割か  
ら、**自分個人にとっての意**  
**味を見出す**ようになった」

**47%**





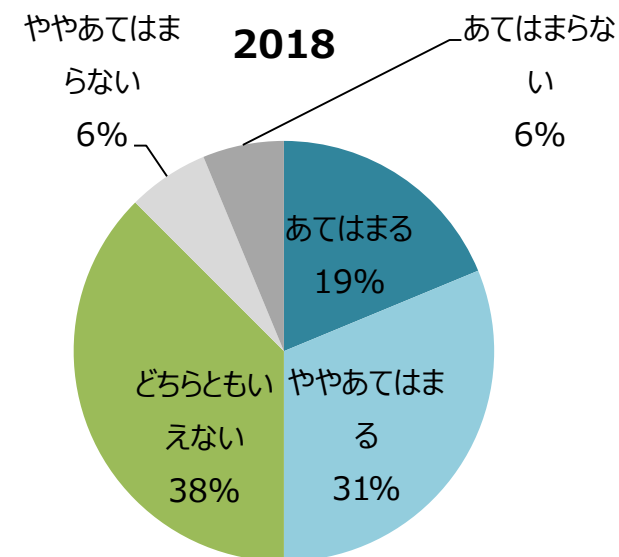
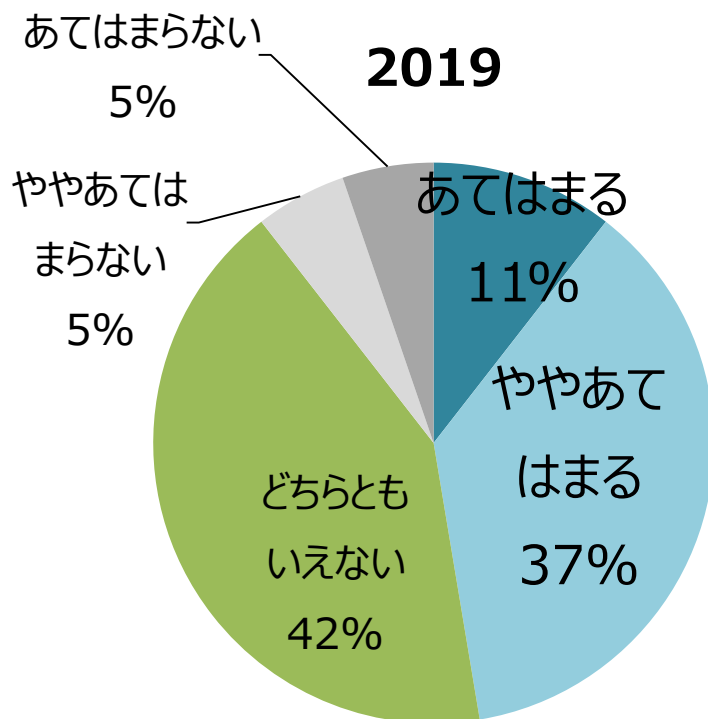
# 仕事における変化① 仕事の意味のとらえ直し

- 自身の仕事の役割や影響について、より深く知ることができた。 (男性, 50～54歳)
- 「(子どもの育ちを願って多くの関係者と話し合いながらかかわるといことが、地域の事業を育てるボランティアの関係性と似ているということについて)、こういうふう(プロボノで)してみても、「あ、こういう(聞き方など)、相談の仕事でも使ってるな」とかいうのに気づかされた部分もあるので…  
やっぱり人と人のかかわりって大事なんだなって、思いました…今後もね、頑張っていきたいなっていうのは」  
(女性, 30～34歳)

# 仕事における変化② 役割や関係性のとらえ直し

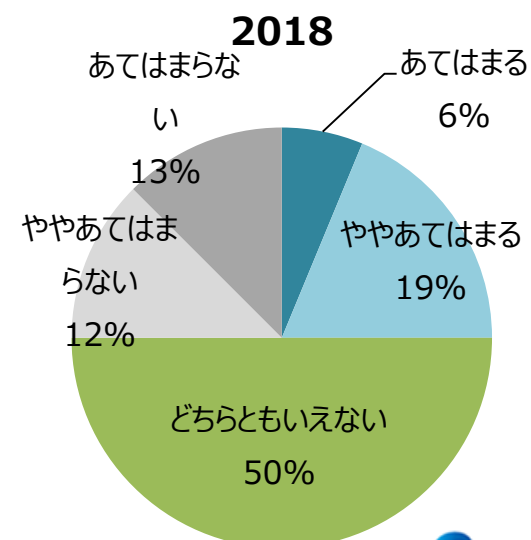
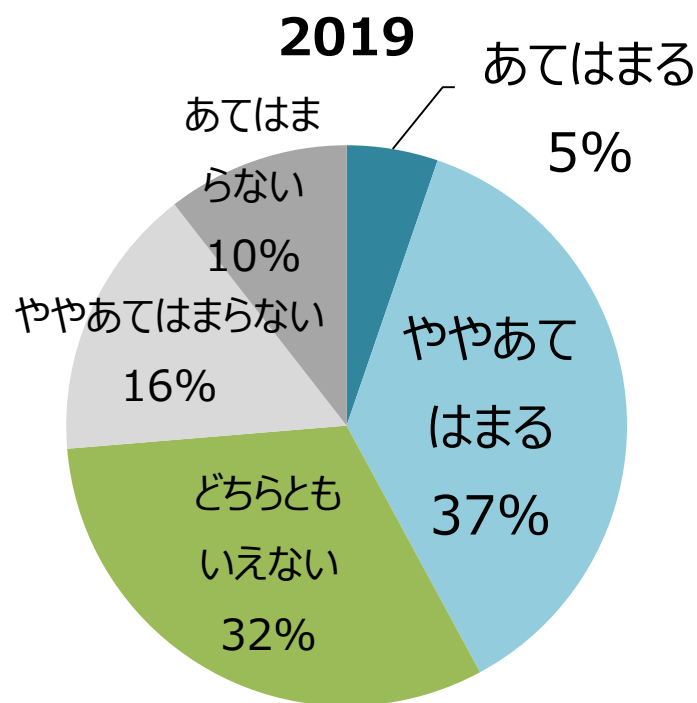
「自分の仕事の範囲をより広くとらえるようになった」

**48%**



「他職種・他部署への仕事上の働きかけを増やすようになった」

**42%**



## 仕事における変化② 仕事上の枠の広がり

- 「(有志の被災地支援募集に手を挙げたことを、自身の変化とを感じるが、それは、)やってみないと分かんないこと いっぱいあるんだなって思えて、…思うだけじゃなくて、行動してみないとっていうのを、行動に移せるようになったということですかね」(男性,45～49歳)
- チームのマネジメントを経験することが出来て大変な面もありましたが、得るものも大きかったと感じています。いずれマネジメントしていく立場になった時に生かして行きたいと思います。(男性,45～49歳)

## 仕事における変化② 仕事上の枠の広がり

- 「もっと今の自分の担当の枠と、なんか違う枠を組み合わせるっていうのも、これからの仕事っていうか、うちの仕事を考えるときに大事かなっていうのは思ってた、それを思っていたけど、自分の頭の中でだけそれがあったのが、このプロボノの活動を通して、具体的にそういう活動をしてみて、こういうやり方もやっぱりいいんだなっていうふうに、実感ではないですけど、面白いなって思いましたね。全然違う人たちと一個のことを考えるっていう。」(男性,45～49歳)

## 仕事における変化③ 人との関わり方の変化

- 「最近、待つことを覚えて。…割とがんがんがんって話してしまっタイプだったんですけど、ちょっと相づち的な感じにできるように…ちょっと見渡せる感じかもしれませんね…必ず前に出るんじゃないなくて、後ろで見えるって。ちょっと落ち着いて、一呼吸置くっていうことは続いてるかもしれませんね。」  
(女性,45～49歳)
- 自分の気づきを発信するだけではなく他者の気づきを受け入れ共有をはかれるようになってきた(男性,55歳以上)
- 人への伝え方を考えるようになった(女性,40～44歳)

# 終わりに これからの社会貢献との関わり

■「1人でできることは少ないかもしれませんが、今回みたいに、グループになることでできることってあると思うので、またそういうのあれば楽しいだろうなって思いました。」

(女性,30～34歳)

■プログラム参加後もNPO法人との関わりが増え、今後もイベントの企画・運営をしていくことになった。子どもがいても、働くことはできる、子育て以外に活動をする時間をつくることができることを実感し大きな収穫、そして自信にもなった。生きがいを得られた経験になった(女性,35～39歳)

# 終わりに これからの社会貢献との関わり

- 「(プロボノは)全然知らない人たちが集まる、課題を共有して、チーム組んで解決に向かうというのが、一つ達成感を得るための活動だと、その分、満足度が高い活動かなと思った。なので、また違う分野でもあればやりたいなど」  
(男性,45～49歳)

# (再掲) 調査結果のまとめ

## ■参加のきっかけ・期待したこと

- 気軽な気持ち、興味・関心から
- 多様な人、異業種の人と一緒に活動することへの期待

## ■どのような経験だったか

- 仕事では得にくい経験
  - 社会にある、多様な生き方や、志ある活動を知る機会
  - スキルや能力を違う場面で生かし、感謝される機会
  - 楽しさや貢献の気持ちに導かれて、手探りで学び考える機会
- 私生活や仕事生活を豊かにする学び
  - 自分の強みや関心を知ったり再確認する機会
  - 他者との関わり方の「引き出し」が増える機会
  - 生き方や働き方に関する考え方が柔軟になる機会